

2006年4月3日

カネボウ陸上競技部・活動拠点移転について

株式会社カネボウ化粧品

過日1月27日にカネボウ株式会社が発表の通り、「カネボウ陸上競技部」は、その運営母体をカネボウ株式会社から株式会社カネボウ化粧品に移管し、4月より活動拠点を東京都内に移しました。同時に東京陸上競技協会及び東日本実業団陸上競技連盟に加盟、登録の申請を行い、平成18年度の競技活動をスタート致します。

当社は、カネボウ陸上競技部の活動を通じて、健やかで心豊かな生活を応援するとともに、スポーツの発展に貢献してまいります。

カネボウ陸上競技部は、1950年の創部以来、活動拠点を山口県防府市に置き、山口県並びに防府市の皆様方より永くご支援を頂いてまいりました。今後はその伝統の上に新たな歴史を力強く刻んでまいりますので、変わらぬご声援を頂きますようお願い申し上げます。

記

1. 正式名称

株式会社カネボウ化粧品陸上競技部（通称：カネボウ陸上競技部）

2. 事務所所在地

東京都世田谷区用賀2-36-12 滝本ビル6階

3. 陸上競技部概要

- | | |
|-------|--|
| 1) 創部 | 1950年 |
| 2) 監督 | 伊藤国光 |
| 3) 人員 | スタッフ5名、選手15名 計20名 |
| 4) 登録 | 東京陸上競技協会（2006年4月申請）
東日本実業団陸上競技連盟（2006年4月申請） |

以上

カネボウ陸上競技部の歴史

- 1950年 鐘紡陸上競技部が創立
- 1951年 田茂井選手が第1回アジア大会(ニューデリー)1万メートルで優勝
- 1957年 貞永信義選手が第6回別府大分毎日マラソン(別府)で優勝
- 1958年 貞永信義選手が第12回朝日国際マラソン(栃木)で宿敵カルボネン選手(フィンランド)を破り優勝
- 1960年 貞永信義選手ローマ五輪に出場
貞永信義選手が第15回毎日マラソン(大阪)で優勝
- 1963年 貞永信義選手が鐘紡監督に就任
- 1964年 「全鐘紡防府陸上競技部」に名称変更
- 1968年 第19回朝日駅伝(福岡-小倉)で優勝
- 1969年 松原一夫選手が第24回毎日マラソン(大津)で優勝
松原一夫選手が第12回エンシェデ国際マラソン(オランダ)で優勝
- 1970年 貞永信義選手がスウェーデン国際マラソンで優勝
- 1974年 第19回全日本実業団対抗駅伝(伊勢)で初優勝
- 1975年 第26回朝日駅伝(福岡-小倉)で優勝
第42回中国駅伝(福山-広島)で優勝
伊藤国光選手が第19回熊日30kmロードレース(熊本)で日本最高記録を樹立
高尾信昭選手がストックホルム国際陸上で1万メートルの日本新記録を樹立
- 1976年 第27回朝日駅伝(福岡-小倉)で優勝
鎌田俊明選手が第20回熊日30kmロードレース(熊本)で日本最高記録を樹立
鎌田俊明選手が第21回モンリオール五輪5千メートル、1万メートルに出場
第21回全日本実業団対抗駅伝(伊勢)で優勝
- 1977年 第28回朝日駅伝(福岡-小倉)で優勝
第44回中国駅伝(福山-広島)で優勝
伊藤国光選手、鎌田俊明選手がワールドゲーム(ヘルシンキ)1万メートルの日本新記録を樹立
伊藤国光選手がDNガラン国際陸上(ストックホルム)で1万メートルの日本新記録を樹立
鎌田俊明選手がDNガラン国際陸上(ストックホルム)で5千メートルの日本新記録を樹立
第22回全日本実業団対抗駅伝(伊勢)で優勝
- 1980年 伊藤国光選手が第22回モスクワ五輪1万メートル代表に選出(日本不参加)
伊藤国光選手が第20回唐津10マイルロードレース(唐津)で日本最高記録を樹立
伊藤国光選手が第24回熊日30kmロードレース(熊本)で日本最高記録を樹立
伊藤国光選手がDNガラン国際陸上(ストックホルム)で1万メートルの日本新記録を樹立
伊藤国光選手が第35回国体(栃木)で2万メートルの日本新記録を樹立
- 1983年 女子部員誕生 越本ひとみ選手
伊藤国光選手が第1回世界選手権(ヘルシンキ)1万メートルに出場
- 1985年 第52回中国駅伝(福山-広島)で優勝
越本ひとみ選手が第5回浜松中日カーニバル(浜松)1600Mリレーで日本新記録を樹立
- 1986年 第53回中国駅伝(福山-広島)で優勝
伊藤国光選手が北京国際マラソンで日本最高記録を樹立

- 1987年 清水 悟選手が立川ハーフマラソン(立川)で日本最高記録を樹立
音喜多正志選手が第7回アジア陸上競技選手権(シンガポール)3000SCで優勝
- 1989年 鐘紡陸上競技部「女子部」正式創部
第56回中国駅伝(福山-広島)で優勝
清水 悟選手が第38回別府大分毎日マラソン(別府)で優勝
- 1990年 伊藤国光選手が鐘紡監督に就任
- 1991年 第58回中国駅伝(福山-広島)で優勝
- 1992年 第43回朝日駅伝(福岡-小倉)で優勝
- 1993年 高岡寿成選手が第4回世界陸上(シュツットガルト)の5千メートルに出場
- 1994年 早田俊幸選手が第22回全日本実業団ハーフマラソン(山口)で日本最高記録を樹立
高岡寿成選手が第11回アジア大会(広島)で1万メートル、5千メートルで2冠達成
- 1995年 第46回朝日駅伝(福岡-小倉)で優勝
第62回中国駅伝(福山-広島)で優勝
徳永大輔選手が第5回世界陸上(イテホリ)のマラソン、早田俊幸選手が同1万メートルに出場
- 1996年 第40回全日本実業団対抗駅伝(前橋)で優勝
第47回朝日駅伝(福岡-小倉)で優勝
早田俊幸選手が第5回東京シティーハーフマラソン(東京)で日本最高記録を樹立
高岡寿成選手が第26回アトランタ五輪1万メートルに出場
男子・女子陸上競技部統合 鐘紡陸上競技部となる
栗林明美選手が第27回防府読売マラソン女子10Kmで日本ジュニア最高記録を樹立
- 1997年 第48回朝日駅伝(福岡-小倉)で優勝
服部孝宏選手が第6回世界陸上のマラソン、高岡寿成選手が同1万メートルに出場
- 1998年 高岡寿成選手がナイト・オブ・アスレチック(ヘルギー)5千メートルの日本新記録を樹立
徳永大輔選手が第29回防府読売マラソン大会で優勝
- 1999年 高岡寿成選手がスバイン・セベリア国際陸上(セベリア)3千メートルで日本新記録を樹立
高岡寿成選手が第7回世界陸上(セベリア)の1万メートル、5千メートルに出場
- 2000年 小倉幸康選手が第38回延岡西日本マラソン(延岡)で優勝
瀬戸智弘選手が第14回福岡国際クロスカントリー(福岡)10Km(一般)で優勝
高岡寿成選手が第27回シドニー五輪で1万メートル7位入賞、5千メートル決勝進出
- 2001年 第52回朝日駅伝(福岡-小倉)で優勝
高岡寿成選手がカージナル招待1万メートルで日本新記録を樹立
高岡寿成選手が第8回世界陸上の1万メートルに出場
- 2002年 高岡寿成選手が第25回シカゴマラソン(シカゴ)で日本最高記録を樹立
- 2003年 佐藤浩紀選手が第34回防府読売マラソン大会で優勝
- 2004年 瀬戸智弘選手が第35回防府読売マラソン10Kmで日本最高記録を樹立
- 2005年 入船 敏選手が第54回別府大分毎日マラソンで優勝
高岡寿成選手が2005東京国際マラソンで優勝
高岡寿成選手、入船 敏選手が第10回世界陸上マラソン(ヘルシンキ)に出場し、高岡選手が4位入賞
中村悠希選手が第4回東アジア競技大会(マカオ)で1万メートル、5千メートルで優勝